

■改訂の趣旨

人口ビジョンを策定した 2016 年以降の人口動態や、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の直近の人口推計などを踏まえ、掲載データの時点更新や背景等の分析、将来人口シミュレーションを行うとともに、新たな将来展望人口を設定し、今後の効果的な人口対策につなげるもの。

I はじめに

- 位置づけ 効果的な人口対策を企画立案する重要な基礎資料
- 対象期間 2015 年 ～ 2065 年

II 人口の現状・分析

1 人口動態の分析

- 自然動態
  - ・出生数の減少と死亡数の増加により、減少幅は拡大傾向（2018 年 △655 人）
  - ・合計特殊出生率は 2017 年で 1.42 と伸び悩み、主要因は未婚化の進行
  - ・経済面の不安、出会いの少なさ、子育て後の再就職や仕事と子育ての両立困難などが背景
  - ・理想と現実の子ども数にギャップ、経済的負担や仕事と子育ての両立困難さなどが背景
- 社会動態
  - ・転出超過が拡大傾向（2018 年 △132 人）
  - ・20 代後半男性で転入超過、過去 20 年間、傾向が継続しているのは帯広・苫小牧のみ
  - ・女性は過去 20 年間、20 代前半を除き 40 代まで概ね転出超過傾向、地元離れは全国的傾向
  - ・東京・札幌への転出超過が拡大、進学・就職に伴う移動が主要因
- 十勝の現状
  - ・人口が増加している石狩管内を除き、人口減少率が道内で最小
  - ・釧路など周辺管内から転入超過が継続、十勝の経済力や交通ネットワークの整備などが背景
  - ・大都市圏への転出超過は、大学進学率の上昇、大手企業志向、就労環境の相違などが背景
- 在住外国人
  - ・2012 年の 466 人から、2018 年の 758 人へ、大幅に増加
  - ・国・地域別ではベトナムなどアジア諸国から、在留資格別では技能実習が大きく増加

2 将来人口の推計と分析

- 考え方
  - ・2018 年社人研準拠推計は社会動態のプラスが大きく、実態と大きく乖離
  - ・2014 年～2019 年実績を基準に、現状のまま推移した場合と人口動態が改善する場合を推計
- 現状の場合
  - ・2013 年社人研推計を上回るが、2018 年推計や人口ビジョン策定時の将来展望人口を下回る
  - ・老年人口は 2045 年まで 2 割程度増加、その後減少し、2065 年には 2015 年と同程度に
- 改善の場合
  - ・改訂前ビジョンの出生率まで改善すると、2065 年で現状より 20,347 人増加
  - ・上記に加え転出入が均衡すると、さらに 4,691 人増加
  - ・長期的には、出生率の改善効果が、社会動態の改善効果を上回る
- 道内比較
  - ・帯広市の人口減少率は比較的 low、2065 年には道内 4 番目の人口規模に
- 減少の影響
  - ・地域経済、雇用、保育・教育環境、コミュニティ、自治体財政などに幅広く影響
  - ・人口減少の抑制に加え、人口減少社会への適応や、変化を前向きに捉えたまちづくりが重要

III 人口の将来展望

1 将来展望に係るアンケート調査結果

※2015 年の調査結果を引き続き掲載。

- 結果概要
  - ・全国の同様の調査結果と比べ、若者の結婚意向が強く、希望子ども数も多い
  - ・十勝・帯広への定住意識は、高校生で約 7 割、畜大生で約 3 割
  - ・地元以外での就職を希望する理由として、「他地域に良い条件の就職先がある」が最多
  - ・就職先の選択で重視する点は、給与などの制度、仕事のやりがいなど

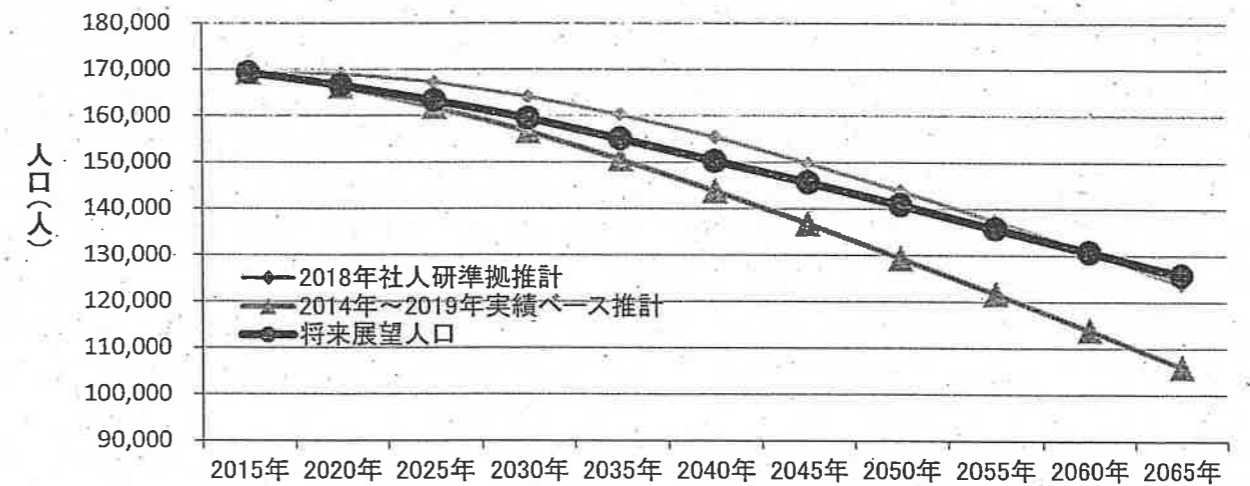
2 目指すべき将来の方向

※改訂前の人口ビジョンの考え方を踏襲

- 自然動態
  - ・結婚・出産の希望を叶えるため、安定した雇用や収入の確保、仕事と生活の両立が重要
  - ・地域資源を活かした産業振興を通し、希望が叶う社会環境の整備を目指す
- 社会動態
  - ・東京・札幌への転出超過の縮小のため、魅力ある仕事の創出が必要
  - ・地域の魅力を発信し、新たなひとの流れを創出

3 人口の将来展望

- 考え方
  - ・合計特殊出生率は、改訂前ビジョンの想定を 5 年遅れで達成  
(2020 年 1.42、2030 年 1.70、2040 年 1.935、2045 年以降 2.07)
  - ・社会動態は、2014 年～2019 年実績から改善を図り、10 年間で 100～150 人の転入超過
- 将来展望人口
  - ・2065 年で 125,755 人となり、社人研推計や実績ベース推計を長期的に上回る
  - ・高齢化率は 2050 年の 37.5%をピークに減少、年少人口割合は上昇
  - ・各世代の人口が同程度となるバランスの取れた人口構成に



推計の名称	2015 年	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	2045 年	2050 年	2055 年	2060 年	2065 年
2018 年社人研準拠推計	169,327	169,139	167,294	164,209	160,264	155,437	149,750	143,788	137,455	130,796	123,785
2014 年～2019 年実績ベース推計	169,327	166,285	161,923	156,652	150,631	143,767	136,668	129,313	121,682	113,910	106,011
将来展望人口	169,327	166,649	163,350	159,451	155,068	150,256	145,644	140,787	135,732	130,708	125,755